

令和7年度 多気地域小学校統合準備委員会 統合小学校整備における発注方式

多気町では、「多気地域小学校統合にあたっての基本的方針（令和5年12月変更）」において、「新しい学校施設の整備については、…（中略）PPP/PFI手法などの民間活力を活用した施設整備・維持管理を検討します。」と方針を示しています。

PPP/PFI手法とは、「公共施設等の建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図るもの」であり、近年、自治体における公共施設整備にて活用されています。

本事業においては、①従来方式、②設計施工一括発注方式（DB方式）、③PFI方式の3つを適応の可能性がある発注方式として考えています。

(1) 従来方式

従来方式とは、設計と建設を個別に発注する方式です。

公共が資金調達を行い、施設の設計・建設を個別に実施するという従来から多く行われてきた発注方式です。設計者が作成した設計図書仕様として示した上での、施工者への発注（仕様発注）となります。

各業務を分割して発注するため、民間事業者の柔軟な発想による施設整備が他の方式と比べて期待しにくいですが、仕様や品質を細かく定めて業務が実施されるため、サービスに一定の質を確保できるのが特徴です。

(2) 設計施工一括発注方式（DB方式）

DB方式とは、設計と建設を一体的に発注する方式です。

公共が資金調達を行い、施設の設計・建設を一括して民間に発注します。設計図書等の具体的な仕様ではなく、要求水準等の性能を示した上での発注（性能発注）となります。

設計・建設を一括発注するため、民間ノウハウの活用により、コスト縮減や工期短縮が期待できるのが特徴です。

(3) PFI方式

PFI方式とは、設計と建設に加えて、施設完成後の維持管理を一体的に発注する方式です。

施設整備費は、民間が資金調達を行い、その後、公共が維持管理期間にわたる分割払いを行います。また、DB方式と同様に、設計図書等の具体的な仕様ではなく、要求水準等の性能を示した上での発注（性能発注）となります。

設計・建設・維持管理を一括発注するため、民間ノウハウの活用により、コスト縮減や工期短縮が期待できることに加えて、施設整備費に関する財政負担の平準化が可能となるのが特徴です。

①従来方式、②設計施工一括発注方式（DB方式）、③PFI方式の3つ発注方式を比べた表は以下のようになります。

表 1 発注方式の比較表

| 項目 | 従来方式 | DB方式 | PFI方式 |
|--------------|-----------------------------------|--|-------------------------------------|
| 財政負担の平準化 | 施設整備費の一括支払いが必要 | | 事業期間中での割賦支払いにより、財政負担の平準化が可能 |
| 民間ノウハウの発揮の余地 | 創意工夫やノウハウ活用の余地が限られる | 創意工夫やノウハウを設計や建設に活用しやすい | 創意工夫やノウハウを設計や建設、維持管理に活用しやすい |
| コスト削減の可能性 | 入札による価格競争のみ | 民間ノウハウの活用による建設コストの削減が期待できる | |
| 発注手続き | 1回あたりの発注手続きの期間は短い、各段階で個別に発注手続きが必要 | 従来方式よりも発注手続きに必要な期間が長い、一括発注により発注期間の短縮、行政の事務負担は軽減（ただし、専門的な発注手続きや民間事業者の審査が必要） | |
| 民間事業者の入札参加 | 他の方式に比べて参加しやすい | 参加条件が高くなり、参加者が少数になる可能性がある | 参加条件がDB方式以上に高くなり、参加者がさらに少数になる可能性がある |